

<6月21日>

不撓不屈

ふとうふくつ

「戻って来てくれないか」。北海道で水門や橋梁、暖房機器などを手がける旭イノボックス現社長の星野恭亮の職場に、父で当時社長の真澄がやってきたのは1970年春のことだ。星野の職場は愛知県豊田市のトヨタ自動車工業(現トヨタ自動車)本社。父は愛知県に住む息子に、北海道から会いに来た。食道潰瘍を患い、大きな手術を控えていたからだ。

父の会社に入社

星野は慶応義塾大学経

トヨタとの別れ

経済学部を卒業後、トヨタ 鉄工所に入社する。に入社した。海外輸出部門に配属され、まさにこれからの時だった。旭鉄工所は父の真澄が「小さい頃から両親が大勤めしていた日本コム(現変なのを見て育ったのアサヒコーポレーション)で、継ぐ気はなかった」と振り返る。だが父の興業した。当初は社員10人しか会社は当時、設備投資を先行させ、後継者がいなければ支援できないと金融機関から言い渡されていた。

旭イノボックス

①

父の潰瘍は手術後、がんだと分かった。「後ろ髪を引かれる思いだが、腹をくぐるしかない」と考えた星野はトヨタを1年余りで退社。24歳だった星野は70年夏、旭イノボックスの前身である旭

後継決意、技術者不足に直面

現在も事業の柱である水門や暖房機との出会い、腹をくぐるしかない」と考えた星野はトヨタを1年余りで退社。24歳だった星野は70年夏、旭イノボックスの前身である旭



「差別化」にこだわってきた旭イノボックス(本社) トラルヒーティングを手がけていた企業が労働紛争で工場が止まり、販売会社から相談されたことがきっかけだ。旭鉄工所は中古機械を買い集め、製作の中心となる人材を集め

すために自ら営業に出た。同時に技術力のある人材を確保し、育成した。「頭脳を使わないとできない難しいことをやらなくてはいけない」。トヨタ時代に他社との競争で差別化の重要性は身にしみて感じていた。「差別化はモノづくりの原点」。この思いが今も星野の経営のバックボーンとなっている。(敬称略)

- ▽所在地 札幌市清田区平岡9条1の1の6、011-8883-8400
- ▽社長 星野恭亮氏
- ▽従業員 245人
- ▽設立 52年(昭27)
- ▽売上高 80億円(16年3月期)
- URL www.asahi-novex.co.jp

不撓不屈

ふとうふくつ

正常に作動

地球温暖化に伴うゲリラ豪雨の多発や東日本大震災の経験から、注目されている洪水対策。特に東日本大震災時には、洪水被害を最小限に食い止めようと、海岸や河川近くで水門を閉める作業を行った消防関係者らが犠牲になった。旭イノベックス(札幌市清田区)の無動力自動開閉樋門ゲート「オートゲート」は、無人で自動開閉するた

旭イノベックス

②

津波に立ち向かう

め、津波時の危険な作業の狙い通りヒット商品に回避できる。

「差別化はモノづくりの原点」。社長の星野恭亮の思いを最も具現化した製品がオートゲートだ。実は震災前に岩手県と宮城県の3カ所に設置されていたが、発生後に正常に作動したことが確認され、評価は高まった。2013年には第5回ものづくり日本大賞(内閣総理大臣賞)を受賞。既設の全国約1300カ所に加え、「設計に入っているものも含め、今後2年ほどで2000カ所に達する」と、星野

建設・維持費低減

もともと全国に約5万カ所あると言われる樋門は、河川から農業用水などを取水・排水するため

の水門の一種。合流する河川との水位の高低差に

オートゲートで社会貢献

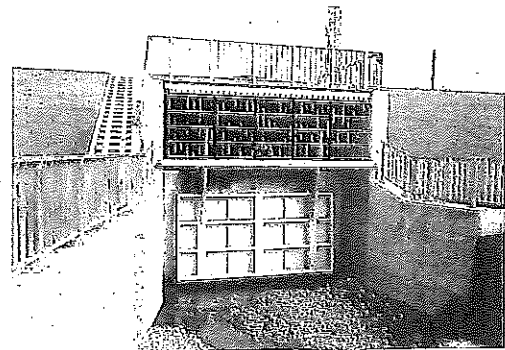
「差別化はモノづくりの原点」。社長の星野恭亮の思いを最も具現化した製品がオートゲートだ。実は震災前に岩手県と宮城県の3カ所に設置されていたが、発生後に正常に作動したことが確認され、評価は高まった。2013年には第5回ものづくり日本大賞(内閣総理大臣賞)を受賞。既設の全国約1300カ所に加え、「設計に入っているものも含め、今後2年ほどで2000カ所に達する」と、星野

応じてゲートを開閉し、住宅や農地側を洪水から守る構造だ。ゲートの開閉は一部油圧式や電動式で河川事務所から遠隔操

主に農家で、高齢化や人

門柱が必要で水門を上下

作するものもあるが、多開閉し、河川の逆流を防まらないう段差を設け、くは樋門操作人が現場にくる必要がなく、モーターやエンジンで行き、目視で操作しなげなどの動力を必要とせ、無人で操作できる。差を必要とせず、既設の樋門を改修して付けら



全国で利用が広がるオートゲート

手不足も指摘され、させる引き上げ式に比べていた。

この問題を解消め、建設費や維持管理コストが低減する。

海岸線でも利用

オートゲートの新製品を依頼されたのが「オートゲートステップ」したのは98年。水レス」の開発も進めてい、従来品はゲートの内側と外側の間に土砂がた

れ、設置時の工事費をさらに削減できる。星野は「16年後半から17年にかけて情報発信していきたい」と、簡単な製品情報をまとめたCDを製作するなど営業にも力を入れる。

今後はオートゲートの大型化で海岸線での利用もにらむ。南海トラフ地震など太平洋側で大型の地震が想定される中、津波対策は喫緊の課題だ。オートゲートを川と海とのT字路に設けることで「津波による洪水を防ぐのに寄与できる」と星野はみる。オートゲートは社会に貢献する可能性を秘めている。

(敬称略)

不撓不屈

ふとうふくつ

業績に陰り

旭イノベックス（札幌市清田区）は土木鉄構、建築鉄構、住環境機器の3事業を展開する。売り上げ構成比率は4割、4割、2割で、各事業部の自由度が高いカンパニー制を取っている。2007年の合併・統合までは各事業部が独立した企業として経営していた。社長の星野恭亮は「水門などで業績が良かった旭鉄工所（現土木鉄構事業

3社合併全国展開

部に他の2社が頼らな
いように切り離してい
た」と理由を語る。
一方で00年代半ばから
北海道の公共工事が減
少。旭鉄工所も業績に陰
りが見え始めていたが、
人員整理はしたくなかつ
た。星野は「北海道で仕
事がなかったら本州に出
て行こう」と決断。た
だ、旭鉄工所だけでは企
業規模として不十分だと
感じていた。

資本金や売上高、財務内
容でも全国で勝負できる
企業にすることを狙っ
た。統合社名は常に改革
の意を込める「イノベ
ックス」を意味する「旭
イノベックス」とした。
星野は「以前より想定し
ていたので、3社の待遇
は同じにしていた」と振

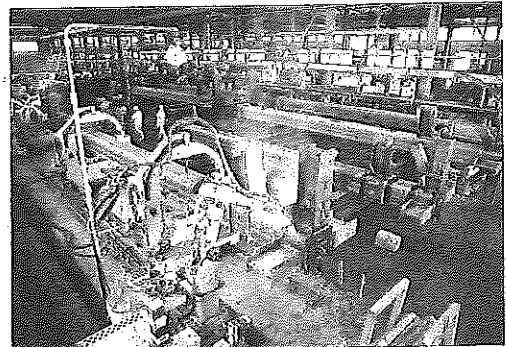
旭イノベックス ③

他社にない強み

旭鉄工所以外の2社の
業績が安定していたこと
もあり、合併することで

り返る。
各事業部は現在も他社
にない強みを追求してい
る。土木鉄構事業部は水
門や橋梁など公共事業で

建造物の安全・省エネ 照準



各事業部が強みを発揮することで会社が発
展する（石狩工場）
主に自治体の入札「良質な鉄骨の製作能力
と、ゼネコンが入札を持つ工場の性能評価基
札した仕事から受注で当社は上から2番目
注する場所があるのHグレード。最上位の
が、各所に「いつSグレード取得は戦略的
でも相談してくださいに必要ないが、限りなく
さいと言っているSグレードに近い管理体
制に持つっていく」と星野
対応できる体制は力を込める。
札幌市が26年冬季五輪
を整えている。

使われる建造物を幅広く
扱う。オートゲートのよ
うな「門柱レスゲートの
分野で大きな競合はな
い」と星野は胸を張る。
い建造物に取り組む。
考えた。

セントラルヒーティング

が主力の住環境機器事業
部は「健康志向」をキー
ワードに事業を進める。
東日本大震災以降、エネ
ルギーの状況は様変わり
している。「ラジエータ
ーメーカーとして安全、
省エネで快適な空間の実
現に取り組みなくてはな
らない」と意気込む。

測定が今後のテーマだ

としており、ヒートポン
プを採用した冷暖房兼用
パネルの性能を評価でき
る実験装置の設置も検討
する。「他社や大学など
にも装置を貸し出せるよ
うになれば理想だ」と、
地域産業の活性化への貢
献も見据えている。
(敬称略)

不撓不屈

ふとつふくつ

社員に還元

「長い道のりだったが、業績面でも安定してきた」。旭イノベックス（札幌市清田区）社長の星野恭亮は、自社の現況に手応えを感じている。同社の純資産は40億円、同社は、自己資本比率は約55%にまで成長した。財務内容を整え、取引先に安心感を与える体制を構築してきた。

経営の安定は社員への

北海道のために

還元にもつながる。他社と差別化を目指す上で、源泉となる。「社員のもの」も「働くのは、まず自分や家族のためだ。ある程度、報酬がないと士気は上がらない」と考える。星野は「社員の平均年齢は40歳で平均年収は500万円、台半ば。上を見たらさきがないが、首都圏の企業を見ても鉄骨関連の中では高い方だ」と胸を張る。

旭イノベックス

各方面で存在感
社員への手厚い待遇
は、差別化された商品の
開発という形で再び還元

加工業レベルアップが使命



北海道は「夜明け前」とみている星野社長
みせる。「かつては、加工業が関わらるも20兆円あった北海道のはいくらでもあるはず道の域内総生産も」と、可能性を引き出す今は19兆円を切ります雰囲気を作り出すことだ。公共事業が削が重要だと説く。今年創立110周年を減されたからとい、今年創立110周年を迎える札幌商工会議所内うでは情けない」に「ものづくり工業部

うわけではなく、社会に貢献する使命感を持つようになった」と星野は語る。この考えは企業経営に加えて、地域への思いにもつながる。

加工業レベルアップが使命

星野は現在、札幌商工会議所の副会頭を務めると言い切る。北海道経済や北海道のモノづくり産業の振興に取組む代表的な一人だ。2015年秋の叙勲では旭日双光章を受章するなど各方面で存在感を産業界の活性化は欠かせない

年に新設した。

顧問を務める北海道機械工業会も「ここ5年で活動も周りの見る目も変わってきた」と話す。3月の北海道新幹線開業については「新しいページがめくられた。北海道がもう一段注目されるようになった」と評価する。

星野は北海道の現状を、また「夜明け前」と分析する。差別化によって新たな北海道の姿をみせる「夜明け」が、すぐに訪れてくれることを期待しながら...

(敬称略)